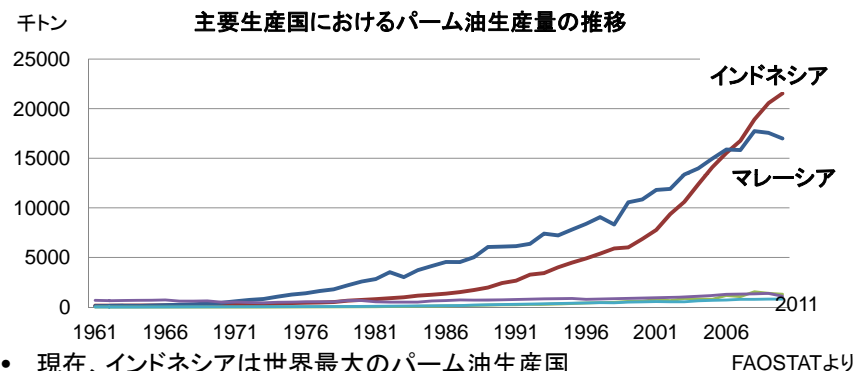


パーム油と日本のつながり

熱帯林行動ネットワーク(JATAN)

中司喬之

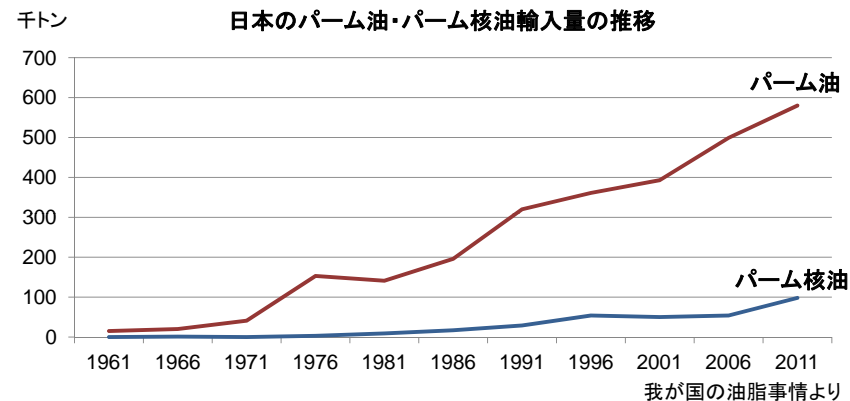


- 現在、インドネシアは世界最大のパーム油生産国
- マレーシア、インドネシアで1990年以降に造成されたアブラヤシ農園の50%が森林を転換してつくられた(Kongsager and Reenberg, 2012)
- インドネシア政府は2020年までに生産量を4,000万トンに倍増させる計画

1

日本とパーム油

日本のパーム油・パーム核油輸入量の推移



- 2011年、日本のパーム油輸入量は約58万トン(核油は約9万トン)
- 国民一人当たり年間4~5リットルのパーム油を消費
- 「植物油脂」として多くの加工食品に使用されている

2

ウィルマー社が方針を発表

- 世界最大のパーム油流通企業(世界の流通量の45%を取り扱う)

1. 森林破壊の禁止
2. 泥炭地域での開発の禁止
3. 地域住民の搾取の禁止

RSPO認証では規定されていない
二次林、泥炭地の保護も含まれる

- 対象: すべての関連企業、サプライヤー
- 期限: 2015年12月31日まで
- ステークホルダーの関与、進捗状況の確認、苦情処理システム

「wilmar: No Deforestation, No Peat, No Exploitation Policy」

<http://www.wilmar-international.com/wp-content/uploads/2012/11/No-Deforestation-No-Peat-No-Exploitation-Policy.pdf>

3

提言・まとめ

- RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)認証は、問題の改善に向けて前進していくための有効なツールであるが、万能なものではない
- 適切に実施されているかどうか、現場の実状を把握することで確認・検証することが必要

4